



今月の1枚

今から千年以上前の奈良・平安時代の筑波郡役所跡と考えられる平沢官衙遺跡。

平沢官衙遺跡と筑波山

常陸国風土記によれば、筑波の地は、古く筑波の県、あるいは紀の国と呼ばれたと伝えられ、筑波国造の治める所であった。その由緒を受け継ぐ筑波郡は、筑波山の南麓を中心に定められ、その郡家の所在は現在のつくば市北条の地に定められてきたが、平沢官衙遺跡はその一角に当たる。

四町村（筑波郡谷田部町・大穂町・豊里町、新治郡桜村）が合併してつくば市が誕生したのは1987（昭和62）年11月であるが、1963（昭和38）年に筑波研究学園都市建設の閣議了解を受けて、後につくば市に合併する筑波郡筑波町においても、桑畑が広がる平沢地区の丘陵地約3haでベッドタウン計画が始まった。その予定地から多数の柱跡や礎石が発見され、1975（昭和50）年に県教育委員会による発掘調査が行われた。この調査で遺跡の重要性が判明し、1980（昭和55）年12月に国指定史跡となった。

歴史公園として復元整備のための資料収集を目的とした本格的な発掘調査が1993～1994（平成5～6）年にかけて行われた。つくば市では、この貴重な文化財を後世に伝え活用するため、1997（平成9）年より6年間かけて、校倉、土倉、板倉3棟の高床式建物の工事を行い往事の姿が復元した。

2003（平成15）年4月より一般開放されており、折しも、開園10周年、研究学園都市50年、常陸国風土記の編纂開始から1300周年にあたった昨年は、古代つくばの様子を紹介する数多くのイベントが催された。

毎年の恒例イベントとして、春先には、倉庫前の斜面に雄大に広がる芝生広場で「春の芝焼き」、秋には「つくば物語」と称する倉庫群のライトアップやコンサート・演劇などが催されている。市民はじめ遠方からの観光客など、多くの人々の憩いの場として親しまれており、筑波山麓の観光スポットの一つになっている。



◆つくばエクスプレス「つくば駅」より、約15km・車で約25分
JR常磐線「土浦駅」より、約17km・車で約30分
常磐自動車道「土浦北IC」より約12km・車で約18分
北関東自動車道「桜川筑西IC」より約43km・車で約60分